

# 校内研修計画

甲州市立奥野田小学校

## 1 学校課題

本校は、「自ら学ぶ子ども」を学校教育目標とし、確かな学力の習得と情操豊かで生命を大切に  
する心の育成のため日々創意に満ちた学校経営に努めている。教育課程の編成や日課表、時間割等  
の工夫改善を積極的に行い、子どもたちが学びやすい学校を目指している。

本校の児童は、全体的に明るく素直で、いろいろなものごとにもじめに取り組むことができる。  
30年以上続く伝統の朝マラソンにも意欲的に取り組み、心身ともにたくましく鍛えている。

学習面においても、平成23年度から「伝え合い、学び合う児童の育成」をテーマとして研究  
を行い、言語活動の充実を図ることによって、自分の考えをみんなの前で発表することを楽しん  
だり、学級集団作りに視点をあて、共感的な話し方や聞き方のできたりする児童の育成を目指し  
て研究を進めてきた。研究の成果として、授業等において自分の考えをしっかりともち、みんな  
の前で発表することを楽しみ、上手に伝えられる児童が増えてきている。また、「Q-U」や「N  
R T」の結果を分析、考察し、学級ごと様々な取り組みを行ったので、学級満足群の児童の割合  
が増加傾向にある。

しかし、Q-Uのクロス集計やN R Tの分析から、授業に取り組みさせるにあたって、各学級に  
二次支援（一斉指導に参加させるには、さりげない配慮と支援が必要）、三次支援（一斉指導に  
参加させるには個別の特別な支援が必要）を必要とする児童が何名かいることも明らかになった。  
このような児童にとっては、何よりも授業で学習していることがわかること、できるようになっ  
たことが実感できることが学校生活の満足にもつながると考えられる。そのためには個々の児童  
の実態に応じた、より効果的な指導法を研究・確立していく必要がある。

## 2 研究主題

「確かな学力」を育む学習指導法の改善

～「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくり～

## 3 主題設定の理由

昨年度の課題をもとに、今年度は、支援を必要とする児童を含めた学級全員が「わかる」楽し  
さ、「できる」喜びを実感できる授業づくりに取り組んでいく必要があると考えた。そこで全学  
年が共通の視点で取り組むことができ、比較的検証しやすい算数科に焦点を絞り、研究すること  
にした。

## 4 研究の内容と方法

- (1) 授業研究                      研究授業（低高ブロック各一名）  
   一人一実践授業  
   確かな学力育成プロジェクト・読解力アップへの取り組み
- (2) テーマにかかわる理論研究
- (3) 特別支援教育の研究
- (4) Q-Uの実施と分析、K13法を生かした学級づくり

## 年間校内研修計画

研究主任 山縣 重人

月	日	内 容	担当者	TC 要請
4	4	① ・今年度の研究の方向性について	研究主任	
	9	② ・今年度の研究のテーマ，内容，組織，計画について	研究主任	
	15	③ ・今年度の研究のテーマ，内容，組織，計画等の決定	研究主任	
	28	④ ・ブロックの組織の決定（ブロック長，授業者等） ・ブロック別研究	研究主任 ブロック長	
5	14	⑤ ・理論研究 ・実践例を用いての学習会	研究主任	
6	11	⑥ ・実践例の持ち寄りによる研究会 ・K13法学習会の環流報告	全職員 研究主任	
	23	⑦ ・ブロック別研究	ブロック長	
	30	⑧ ・研究授業Ⅰ（5年）の指導案検討	5年担任	
7	9	⑨ ・研究授業Ⅰ（5年）	5年担任	○
8	22	⑩ ・特別支援教育の学習会 ・教育課程説明会の環流報告 ・「確かな学力育成プロジェクト」「読解力向上」に関わる 授業計画の作成	特支コーディネーター	○
9	3	⑪ ・Q-Uの分析・活用の充実	ブロック長	
	10	⑫ ・一人一実践についての計画	各教科主任	
10	14	⑬ ・ブロック別研究	ブロック長	
	29	⑭ ・研究授業Ⅱ（2年）の指導案検討	2年担任	
11	5	⑮ ・研究授業Ⅱ（2年）	2年担任	○
	19	⑯ ・「確かな学力育成プロジェクト」「読解力向上」に関わる 授業のまとめ	研究主任	
12	10	⑰ ・Q-Uの分析，活用のまとめ ・校内研究の成果と課題アンケートについて ・ブロックの研究の成果と課題について（各ブロック）	研究主任 ブロック長	
1	28	⑱ ・校内研究の成果と課題アンケートについてのまとめ ・研究紀要作成について	研究主任	
2	25	⑲ ・研究紀要の作成	研究主任	
3	4	⑳ ・研究紀要製本	研究主任	